

みずほマーケット・トピック(2025年6月27日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

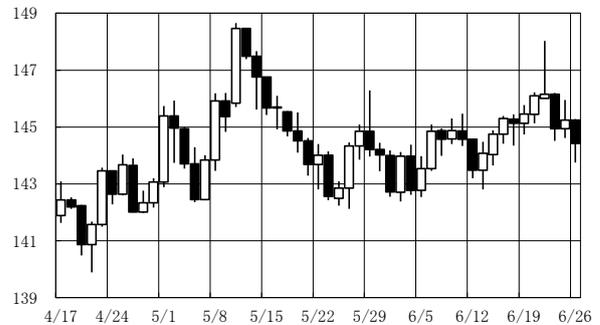
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

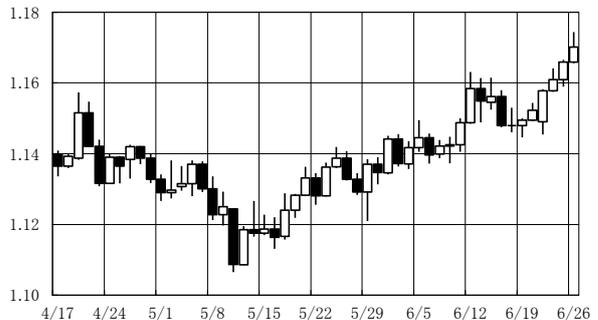
- 今週のドル/円はじりじりと値を下げる展開。週初23日、146.21円でオープンしたドル/円は米国によるイラン核施設攻撃を受けたドル全面高が支えとなり、147円台に乗せる展開。海外時間は、一時週高値となる148.01円まで続伸した後、FRB高官によるハト派発言や原油価格の急落が嫌気される中で、一時146円ちょうどに水準を切り下げた。24日、ドル/円はイラン・イスラエル停戦合意の発表を受け、145円台前半へじり安。海外時間は、米6月コンファレンスボード消費者信頼感の弱めな結果やパウエルFRB議長のハト派発言が材料視され、米金利低下と共に145円を明確に割り込んだ。25日、ドル/円は田村日銀審議委員の発言を受け円買い優勢となるも、長くは続かずに145円台前半に反発。海外時間は、146円手前に続伸後、米5月新築住宅販売件数弱い結果や米株の軟調推移が重しになり、145円台前半へ値を下げた。26日、ドル/円はランプ米大統領が次期FRB議長の早期指名を検討との報道を受けドル安地合いとなり、一時144円台前半へ軟化。海外時間は、一時週安値の143.76円まで下げ幅を拡大する場面も見られたが、その後はドル売りの一服を支えに144円台半ばに値を上げて引けた。本日のドル/円は、弱めの本邦物価統計が好感され、144円台後半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは堅調に推移し、年初来最高値を更新した。週初23日、1.1505でオープンしたユーロ/ドルは中東情勢緊迫化によるドル買い相場を受け下押し場面もあったが、その後は米金利低下や原油価格の急落が好感され、1.15台後半へ反発した。24日、ユーロ/ドルは米経済指標の冴えない結果や米金利低下が支えとなり、1.06台に乗せた。25日、ユーロ/ドルは米経済指標の弱めな結果を受け、米金利低下とともに1.16台後半に上昇した。26日、ユーロ/ドルは上述の次期FRB議長指名報道を受けたドル全面安が好感され、2021年9月以来の高値となる1.1745に上値を切り上げた。本日のユーロ/ドルは、ドル売りの一服を背景に、1.17手前で取引されている。

		前週末	今 週			
		6/20(Fri)	6/23(Mon)	6/24(Tue)	6/25(Wed)	6/26(Thu)
ドル/円	東京9:00	145.24	146.21	145.91	144.96	144.90
	High	146.22	148.01	146.16	145.95	145.24
	Low	145.13	146.00	144.52	144.63	143.76
	NY 17:00	146.05	146.13	144.88	145.27	144.40
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1511	1.1505	1.1599	1.1618	1.1684
	High	1.1544	1.1581	1.1641	1.1665	1.1745
	Low	1.1492	1.1452	1.1577	1.1590	1.1654
	NY 17:00	1.1523	1.1578	1.1609	1.1660	1.1702
ユーロ/円	東京9:00	167.28	168.13	169.08	168.33	169.21
	High	168.37	169.68	169.17	169.36	169.39
	Low	167.24	167.52	167.92	168.19	168.60
	NY 17:00	168.28	169.25	168.17	169.32	168.90
日経平均株価	38,403.23	38,354.09	38,790.56	38,942.07	39,584.58	
TOPIX	2,771.26	2,761.18	2,781.35	2,782.24	2,804.69	
NYダウ工業株30種平均	42,206.82	42,581.78	43,089.02	42,982.43	43,386.84	
NASDAQ	19,447.41	19,630.98	19,912.54	19,973.55	20,167.91	
日本10年債	1.39%	1.40%	1.41%	1.39%	1.41%	
米国10年債	4.38%	4.34%	4.29%	4.29%	4.24%	
原油価格(WTI)	73.84	68.51	64.37	64.92	65.24	
金(NY)	3,385.70	3,395.00	3,333.90	3,343.10	3,348.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、7月3日(木)に6月雇用統計が公表予定となっている。前回5月の結果は、非農業部門雇用者数が+13.9万人(前月比、以下同様)と、4月(修正後:+14.7万人)の伸びを下回るも、市場予想(+12.6万人)は上回った。他方で失業率は4.2%となり、市場予想および4月に一致。なお、平均時給は+0.4%となり、市場予想の+0.3%および4月の+0.2%を上回った。賃金の伸びこそ依然強いが、失業率は小数点第二位以下で見るとじりじり悪化傾向で、且つ雇用者数の伸びも減速していることから、雇用環境全体としては緩やかに軟化しつつあるのだろう。なお、6月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+12.0万人、失業率を4.3%、平均時給を+0.3%と見込んでいる。
- 本邦では、7月1日(火)に4~6月期日銀短観(以下6月調査)が公表される。前回1~3月期(以下3月調査)の調査対象期間は3月末までのため、米相互関税公表(や賦課)の影響は織り込まれていない。またこの間、品目別の米輸入関税も実際に賦課されている。この点、6月調査の結果で最も注目を集めるのは、製造業の景況感であろう。貿易統計から一部業種において日本企業による関税コスト引き受けが確認されていること、為替がやや円高地合いにあることなどに鑑みれば、大企業・製造業の業況判断DIは2四半期連続で悪化する公算が大きい。翻って非製造業は、記録的な訪日外客数に規定されるインバウンド消費が支えになる一方、インフレ負ける格好で軟調な国内個人消費が重しになる。結果、大企業・非製造業の業況判断DIは横ばい圏での推移が見込まれる。

	本 邦	海 外
6月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 5月失業率/有効求人倍率 6月東京消費者物価指数 1~3月期資金循環統計 	<ul style="list-style-type: none"> 米5月個人所得/支出 米5月個人消費支出デフレーター 米6月ミシガン大学消費者マインド(確報)
30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 5月鉱工業生産(速報) 5月住宅着工件数 	<ul style="list-style-type: none"> 独6月消費者物価指数(速報) ECBフォーラム(7月2日まで)
7月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 4~6月期日銀短観 6月製造業PMI(確報) 6月消費者態度指数 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏6月製造業PMI(確報) ユーロ圏6月消費者物価指数(速報) 米6月ISM製造業景気指数 米5月JOLT求人件数
2日(水)	—————	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏5月失業率 米6月ADP雇用統計
3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 6月非製造業PMI(確報) 参議院選挙公示 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏6月非製造業PMI(確報) ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(6月会合分) 米6月雇用統計 米6月ISM非製造業景気指数
4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 5月家計支出 	<ul style="list-style-type: none"> 独5月製造業受注 ユーロ圏5月生産者物価指数

【当面の主要行事日程(2025年7月~)】

- 参議院選挙(7月3日公示、7月20日投開票)
- ECB政策理事会(7月24日、9月11日、10月30日)
- FOMC(7月29~30日、9月16~17日、10月28~29日)
- 日銀金融政策決定会合(7月30~31日、9月18~19日、10月29~30日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貫かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直投目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる？～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～)
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国価格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分)
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマンドートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～)
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分)
	日米通商交渉プレビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～)
2025年4月9日	トランプ大統領は「カーブ効果」に耐えられるのか
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か？
2025年4月7日	インバウンド需要はピークアウトするか？
2025年4月4日	週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～)
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～)
2025年3月25日	インフレに適應する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～
2025年3月24日	インフレか、デフレか～FOMCを終えて～
2025年3月21日	週末版(日銀会合を終えて～「史上最大の円ロング」、2つの先行き～)
2025年3月18日	「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について
2025年3月17日	日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年2月分)
2025年3月14日	週末版(史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～)
2025年3月12日	過去最大の円ロングに勝算はあるのか？
2025年3月11日	テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～
2025年3月10日	テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～
2025年3月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～)
2025年3月5日	ロウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～
2025年3月4日	トランプ発言を受けて～「円安はするい」の一点張り～
2025年3月3日	ロウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～
2025年2月28日	週末版
2025年2月27日	欧米デカップリングに対するECBの見解
2025年2月25日	ドイツ総選挙プレビュー～「壁の内側」では何も変わらず～
2025年2月21日	週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～)
2025年2月20日	トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分)
2025年2月18日	円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」
2025年2月17日	本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～
2025年2月14日	週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～)
2025年2月13日	ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～
2025年2月12日	デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音
2025年2月10日	為替需給から整理する日米首脳会談
2025年2月7日	週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～)
2025年2月5日	関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～
2025年2月4日	「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？
2025年1月31日	週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～)
2025年1月30日	FOMCを終えて～近づく「利下げの終わり」～
2025年1月28日	一抹の不安を感じる大統領と財務長官の齟齬
2025年1月27日	日銀会合を終えて～円安次第、変わらず～
2025年1月24日	週末版
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁
2025年1月22日	ワンタッチは解消されたのか～日銀プレビュー～
2025年1月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年12月分)
	就任演説を受けて～気になる原油価格の今後～
2025年1月17日	週末版